

## 日本人教師はタイ人教師とともに働くことをどう捉えているか<sup>(1)</sup>

### ——量的調査と自由記述の分析から見えること——

松尾憲暁、香月裕介、井上智義<sup>(2)</sup>

#### 1. はじめに

国際交流基金(2013)によると、世界で日本語教育を実施している機関のうち日本語母語話者教師が在籍している機関の割合は約4割である。その中でも、タイにおいては465機関のうち日本人教師が在籍する機関数は218機関と半数近くを占め、日本人教師の在籍機関数だけみると、その数は東南アジア諸国の中で最も高い。これら日本語母語話者教師が在籍する機関では、非母語話者教師も同じ現場で働いていることが多く、日本語母語話者教師と非母語話者教師とが協力して働くことが求められる。しかし、そこでの両者の関係はいつも良好であるとは言い難く、問題を抱えていることも少なくない。そこで、本研究では「タイ人教師—日本人教師<sup>(3)</sup>」の関係に焦点を当て、両者の関係に対する日本人教師の意識を明らかにする。具体的には、「タイ人教師とともに働いている／働いた経験のある日本人教師」を対象とし、「タイ人教師とともに働く」ことをどのように捉えているかを調査・分析する。

#### 2. 先行研究

日本人がタイ人とともに働くことに対してどのような意識を持っているかを調査・分析したものは、チンプラサートスック(2005)がある。チンプラサートスック(2005)は、タイの日系企業で働く日本人社員と現地のタイ人社員のビジネス・コミュニケーション上の問題について、両者を対象に質問紙調査を行った。その結果、日本人社員はタイ人社員があまり意識していないビジネス風土など仕事の能率に関わる問題を一番意識していることが明らかになった。チンプラサートスック(2005)の調査は日系企業を対象にしたものであるが、日本人がタイ人とともに働くにあたっての意識を量的調査から明らかにしている点で、本研究にも重要な示唆を与えるものである。

タイの日本語教育における日本人教師のタイ人教師に対する意識に言及している研究としては、まず佐久間(1999)が挙げられる。佐久間(1999)では、タイへ派遣された経験のある日本人教師への聞き取り調査から、日本人教師の多くがタイ人教師との仕事から多くのことを学んでいると感じていること、同時にタイ人教師との考え方の違いによるネガティブな意識を持っている日本人教師もいることの両面性を指摘している。この佐久間(1999)の指摘を裏付けるものとして、池谷ほか(2009)、中山(2010)、片桐ほか(2011)の一連の研究がある。これらの研究は、タイ人教師と日本人教師がともに働いた経験を通して両者にどのような変容が見られたのかを分析し

ており、タイの教育現場の現実と向かい合う中で日本人教師が自己の「仕事観」「指導観」を修正していく過程と、それだけでなく、日本人教師がタイの「仕事観」「指導観」に適応できず離れていく過程を明らかにした。このことから、日本人教師がタイ人教師とともに働く中で意識を変容させていくこと、また、その意識にはポジティブなもの、ネガティブなもの、両面があることが分かる。

香月（2012）では、同一の高等教育機関で働くタイ人教師と日本人教師へのインタビュー調査の分析から、両者の互いの捉え方には様々な相違があることが示された。また、この捉え方の相違は両者のコミュニケーションの中で常に変容し、共有化に向かっていくことも示唆された。具体的な内実とは言及されていないものの、捉え方の変容の一つのあり方として「意識の共有化」が挙げられたことは重要な指摘である。

以上で見たように、タイにおける日本人教師の協働意識に関する研究は、他国のそれに比べて比較的進んでいると言えよう。しかし、これらの研究はいずれも質的研究であり、量的側面から実証的に日本人教師の協働意識を明らかにしたものは管見の限り存在しない。日本人教師の意識がどのようなものを統計的に示すことができれば、これまでの質的研究における知見と合わせて、更なる考察が可能になると考えられる。よって、本研究では、量的な手法を取り入れた調査・分析を行う。

### 3. 方法

量的調査を行うために、調査方法には、質問紙調査を採用した。以下に詳細を記す。

#### 3.1 調査材料

質問紙は、フェイスシート、6段階のリッカート尺度を用いた30の質問項目、複数の自由記述欄、および2項目の2件法の質問項目から構成される（巻末資料）。

まず、フェイスシートでは、調査対象者の年齢、タイにおける滞在歴、当時の所属機関の種類と雇用形態、同僚教師の人数、さらには、タイ語の能力についての簡単な質問を準備した。

また、質問紙調査における30項目は、タイ人教師と日本人教師の業務内容、役割分担、価値観、能力、教育効果など協働に関わると考えられるものを幅広く選定した<sup>(4)</sup>。

自由記述については、タイ人教師との協働に関する否定的なエピソード記述と、タイ人教師との協働において心がけていることに関する自由記述を求める項目を用意した。前者においては、そのエピソードを体験した時期（タイで働き始めてからの経過月数）、そのエピソードが生じた場所（職場か職場以外）、相手の年齢と日本語教師歴および日本語能力、相手との心理的な関係などについての回答を求めるとともに、現実場面でのタイ人教師との関係にまつわるエピソードの具体的な記述と、そのときの調査対象者の思いや心情についての記述を求める項目を準備した。

最後に、同僚以外に親しい知り合いがいるかどうかと、タイ人のカウンターパートがいるかど

うかについても、2件法で回答を求める項目を設定した。

### 3.2 調査対象者

調査はタイでタイ人教師とともに働いている、もしくは働いた経験がある日本人教師74名(女性60名・男性14名)を対象に実施した。所属機関については、日本語学校が4名、中等教育機関が16名、高等教育機関が49名、その他が5名であった。また雇用形態については、日本から派遣された者が18名、現地採用者が49名、ボランティアが7名であった。さらに彼らのタイ語能力に関しては、挨拶程度としたものが23名、日常会話程度としたものが38名、仕事で使える程度としたものが12名見受けられた(残り1名は回答せず)。

### 3.3 手続き

調査は2012年4月から5月にかけて、およそ1ヶ月の期間を設け、実施した。調査はメールにて、質問紙と依頼状のデータファイルを送付した。その際、著者らのネットワークだけでは限界があるため、まずいくつかの教師会<sup>(5)</sup>や調査者の知人に協力をお願いし、そこから転送自由の形で他の方にも広く依頼するという形を採った。その後、質問紙の回答と署名済みの依頼状をメールにて返送してもらった。

## 4. 結果と考察

### 4.1 30項目の質問に対する分析結果

すべての調査対象者の前述の30項目に対する6段階の評定値を因子分析にかけた結果、表1に示すとおり3つの因子が抽出された。第1因子については、「タイ人教師の教え方に疑問を感じることが多い」や「タイ人教師とともに働くことには、ストレスが多い割に成果が期待できない」などの項目の負荷量が高いことから「協働困難」因子と命名した。また、第2因子については、「タイ人教師にしか担当できない仕事がある」や「タイ人教師だからこそできる役割がある」、「日本人教師だからこそできる役割がある」などの項目で負荷量が高いことから「独自性重視」因子と名付けた。最後に第3因子については、「タイ人教師と日本人教師の関係が良好だと学生の日本語学習にも効果がある」や「タイ人教師と日本人教師の関係が良好だと学科や授業の運営がうまくいく」などの項目で負荷量が高いことから「関係性重視」因子と命名した。

表 1：質問紙項目と因子分析の結果

	因子		
	1	2	3
Q17 タイ人教師の教え方に疑問を感じるが多い	.879	-.120	.045
Q19 タイ人教師とともに働くことにはストレスが多いわりに成果が期待できない	.835	-.373	.182
Q26 タイ人教師の仕事のやり方に疑問を感じるが多い	.750	-.007	-.003
Q20 タイ人教師の日本語力に疑問を感じるが多い	.710	-.017	.069
Q21 日本人教師には言いやすいことでも、タイ人教師には言いにくいことがある	.594	.195	-.102
Q03 タイ人教師と日本人教師では仕事に対する価値観が異なる	.467	.341	-.260
Q04 タイ人教師と日本人教師がともに働くにあたって両者の文化の違いは大きく影響する	.445	.327	-.131
Q16 タイ人教師と日本人教師が共に働く場合、日本人同士で働く場合に比べて困難を伴う	.382	.127	-.073
Q06 タイ人教師にしか担当できない仕事がある	-.009	.833	-.115
Q29 タイ人教師だからこそできる役割がある	.069	.716	.253
Q30 日本人教師だからこそできる役割がある	.015	.707	.236
Q18 タイの日本語教育において日本人教師は欠かせない存在だ	.055	.601	-.075
Q07 日本人教師にしか担当できない仕事がある	.107	.564	-.037
Q22 タイ人教師と日本人教師がともに働くことで、単独では得られない効果が期待できる	-.238	.562	.258
Q12 日本人教師が機関内で置かれている立場はタイ人教師の立場とは大きく異なる	-.073	.444	.028
Q15 タイ人教師と日本人教師の関係が良好だと学生の日本語学習にも効果がある	.061	.002	.740
Q14 タイ人教師と日本人教師の関係が良好だと学科や授業の運営がうまくいく	.142	.187	.695
Q09 学科や授業に関する情報はタイ人教師と日本人教師の間ですべて共有されるべきだ	.030	.116	.624
Q23 タイでは、タイ人教師のサポートなしには日本人教師は仕事ができない	-.049	.061	.376
Q10 ともに働くにあたって、「タイ人である」「日本人である」ということはあまり関係ない	-.162	-.168	.375
Q13 プライベートでもタイ人教師と日本人教師は親しく付き合うべきだ	-.177	-.157	.356

これらの結果から、回答者によってはタイ人教師との協働に対して、比較的好意的に受け止めている者と、その協働に困難を感じる者たちが、それぞれ一定数いることが推測される。また、タイ人教師と日本人教師の特性を認識している回答者と、そうでない回答者がいることも推測される。さらに、タイ人教師と日本人教師の連携がうまくいくかどうか教育成果にもかかわっていると認識しているものと、そうでないものがあることも推測される。このように、同一の国タイでタイ人教師とともに働いている、もしくは働いた経験がある日本人教師といえども、そのときにタイ人教師に対して抱いた感情や思いは、回答者によっては、同じではないことが示されたといえる。それらの違いは、何によって規定され、どのような要因が彼らの思いや認識に影響を与えたのかについては、詳しく分析していく必要があると思われる。

そこで、まず、滞在時期と因子ごとの評定平均値の関係を調べるために、2 要因の分散分析を行った。その結果、因子 1（協働困難）において、短期滞在者（2 年未満：N=29）と長期滞在者（2 年以上：N=45）の評定平均値に有意差が見られた（ $F(1,216) = 8.974, p < .005$ ）<sup>(6)</sup>。この結果は、短期滞在者のほうが長期滞在者より比較的タイ人教師との協働が困難であると感じていること、滞在年数が協働に影響を与える要因の一つであることを示している。その結果を図 1 に示す。

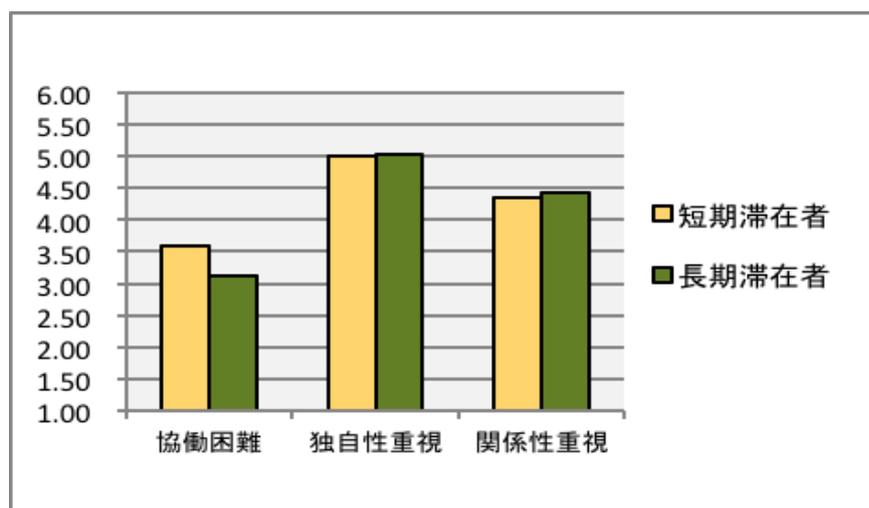


図1 滞在時期と因子ごとの評定平均値の分散分析

次に、所属する機関の種類（高等教育機関と中等教育機関の2群）と因子ごとの関係について分散分析を行ったところ、いずれの因子においても、所属する機関の違いによる有意差は見られなかった。さらに、タイ語能力（挨拶程度／日常会話程度／仕事で使える程度の3群）と因子ごとの関係についても分散分析を試みたが、有意差は見られず、タイ語能力との関連も示されなかった。

これらの結果から、協働に対する意識には、所属機関やタイ語能力よりも滞在年数のほうが強い影響を与えていると推測され、滞在年数に関しては、「滞在年数が長くなるにつれて、協働に困難さを感じなくなる」という仮説が立てられる。これは言い換えれば、滞在年数を経る中で、日本人教師が「協働に困難さを感じなくなるように」変容しているということである。この変容が具体的にどのようなものなのかは統計分析からは示すことができないが、後述のエピソード記述から、いくつかの考察を試みる。

## 4.2 自由記述

3.1で述べたとおり、否定的なエピソードの記述の設問では、現実場面でのタイ人教師との関係にまつわる具体的なエピソードと、その時の考えや心情についての記述を求めた。また、タイ人教師と一緒に働くときに心がけていることがあれば、そちらも記述してもらった。

まず、エピソードについて、そこで得られた回答の内容の一部を以下に挙げる。

<高等機関で1年間働いていたAのエピソード>

職務上必要と思われる連絡をきちんとしてくれない。例えば、欠勤や出張による不在や提出書類の期限、イベントによる休講、旅行などの出発日や集合場所など…。前もって知っていることも直前にしか教えてくれなくて困ることがたびたびあった。

(その時の考え) そのようなことはやめてほしいと何度か言ったが、改善してくれないのであきらめたこの国ではこれが当たり前なのだと思うしかないと思った。

<中等教育機関及び日本語学校で働いていた B のエピソード>

タイの高校で1年間ボランティアとして働いていた時のことだが、授業を突然お願いされたことが多々あった。

(その時の考え) 最初は戸惑ったが、徐々にそれが普通のことようになってきたため、担当予定ではない授業の準備もあらかじめしておき、いつでも対応できるようにしておいた。しかし、その後、日本語学校で働いた際には、そのようなことは一度もなく、タイ人教師は皆、日本人教師同様にきちんと事前準備をして授業に取り組んでいたため、公務員としてのタイ人教師と会社員としてのタイ人教師では、仕事への取組み方が異なると感じた。

以上はエピソードの一例ではあるが、Aからは「あきらめ」、Bからは「受け入れ」といった態度が見て取れる。また、Bのエピソードからは「タイ社会への気づき」が得られていることも重要な示唆を与えてくれる。このように、エピソード全体を概観すると、タイ人教師の日本語能力や教授能力に関するものよりも、タイ人教師との仕事のやり方の相違に関する記述が多かった。また、その時の考えとして、「相手のやり方を受け入れる」ことが多く挙がっていたが、その受け入れ方にはAのような消極的な態度とBのような積極的な態度が観察された。このことは、先述の池谷ほか(2009)をはじめとする一連の研究で示された「日本人教師の意識の変容の両面性」につながるものである。

また、タイ人教師とともに働く時に心がけていることについては、様々な回答が得られたが、それらを分類すると、「相手への尊重」「タイの社会習慣の尊重」「ストレス回避」「共有化」「場作り」「プライベートの重要性」「個人としての尊重」「異邦者意識」「役割分担」「我慢」「相手を観察」といった様々な方略が見受けられた<sup>(7)</sup>。

これらのエピソード記述から得られた日本人教師の考え、あるいは心がけの例は、本研究の統計分析から導かれた仮説である「滞在年数が長くなるにつれて協働に困難を感じなくなる」という変容のひとつのあり方、あるいは困難を感じなくなるための方略ではないかと推測される。

## 5. おわりに

本研究では、タイでタイ人教師とともに働いている、もしくは働いた経験がある日本人教師を対象に、タイ人教師とともに働く際にどのような意識が働いているのかを調査した。その結果、滞在年数が協働に影響を与える要因の一つとなっていることがわかり、「滞在年数が長くなるにつれて、協働に困難さを感じなくなる」ことが仮説として示された。エピソード記述からは、仕事

のやり方の相違からタイ人教師に対して不快感を持った経験がある日本人教師が多いこと、また、そのような状況に陥った場合、多くの教師が相手のやり方を受け入れて対処していることが読み取れた。さらに、タイ人教師とともに働く際に、日本人教師は様々な方略を用いていることも示唆された。そして、これらの結果から、この「相手のやり方を受け入れる」ことが、「協働に困難を感じなくなる」という教師の変容のひとつのあり方であり、そのための方略ではないかという仮説も得られた。

今後は、これらの仮説を検証するために、まず、日本人教師がタイ人教師との関係性の中で、時系列的にどのように変容していくのかを探る必要がある。また、日本人教師だけでなく、タイ人教師の意識の傾向も調査する必要がある。さらに、今回の調査のエピソード記述の部分では、学習者への学習効果を意識し、それについてのタイ人教師との考え方の違いから、相手に不信感を持つ、といったエピソードもいくつか見受けられた。このことから、教師間の協働が学習者にどのように関わっているのかを明らかにしていくことも課題の一つであろう。

以上を今後の課題とし、本稿の議論を終える。

## 注

- (1) 本稿は、2012年日本語教育国際研究大会（於：名古屋大学）でのポスター発表の内容に更なる分析を加え、加筆・修正したものである。
- (2) 本稿の執筆は全員で行ったため、執筆分担の抽出は不可能である。
- (3) 本研究においては、用語における混乱を避けるため、タイにおける日本語母語話者教師については日本人教師、タイにおける日本語非母語話者教師についてはタイ人教師という名称を用いる。実際には「日本人」「タイ人」という概念は非常に曖昧なものであり、また、そのまま「日本語母語話者」「日本語非母語話者」に当てはまるものではない。なお、このような区別のあり方には「日本人教師」及び「現地講師」、「日本語母語話者教師」「非母語話者教師」など、様々な区別があるが、本稿ではその相違について詳細に論じることはしない。
- (4) この選定については、タイ人教師と働いた経験がある松尾及び香月がまず項目を挙げ、それらを3名で吟味し、推敲を何度も重ね、項目を絞っていった。
- (5) 具体的には、「タイ国日本語教育研究会」「北部タイ日本語教師会」「ラチャパットの日本語教育を考える会」「タイの日本語教育を考える会」といった教師会や、国際交流基金などである。
- (6) 2年を区切りとしたのは、公的機関の派遣が2年を基本としていることが主たる理由である。また、実際に著者らの周りでも2年で帰国する教師が多かった。
- (7) これらの方略の具体的な分析・考察については、紙幅の都合上、機会を改めたい。

## 参考文献

- 池谷清美、中山英治、片桐準二、カノックワン・ラオハブナキット片桐（2009）「タイ人教師と日本人教師の日本語教育協働現場における課題—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる仮説モデルから—」2009年度豪州日本研究大会・日本語教育国際研究大会 発表資料
- 片桐準二、Kanokwan Laohaburanakit KATAGIRI、池谷清美、中山英治（2011）「タイ高等教育の日本語教育協働現場における「成長する教師」の可能性—タイ人教師が経験する協働現場の実態分析からの考察—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第8号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp.35-44
- 香月裕介（2012）「海外の日本語教育現場における現地教師と日本人教師の「自己と他者の位置づけ」の相違」『日本語・日本文化研究』第22号、大阪大学『日本語・日本文化研究』編集委員会、pp.17-30
- 国際交流基金（2013）『海外の日本語教育の現状—2012年度日本語教育機関調査より』凡人社
- 佐久間勝彦（1999）「海外で教える日本人日本語教師をめぐる現状と課題—タイでの聞き取り調査を中心に—」『世界の日本語教育〈日本語教育事情報告編〉』第5号、国際交流基金日本語国際センター、pp.79-107
- チンプラサートスック、パチャリー（2005）「タイ人と日本人との間のビジネス・コミュニケーションの問題に関する研究」お茶の水女子大学日本言語文化学会編『共生時代を生きる日本語教育—言語学博士上野田鶴子先生古稀記念論集—』凡人社、pp.349-376
- 中山英治（2010）「タイの日本語教育協働現場における日本人教師の仕事観・指導観の変容プロセス—M-GTAによる仮説モデルの生成—」『2010年度日本語教育学会第7回研究集会予稿集』社団法人日本語教育学会、pp.30-34
- 松尾憲暁・香月裕介・井上智義（2012）「日本人教師のタイ人教師との協働における意識—質問紙調査から見えること—」『2012年日本語教育国際研究大会予稿集第1分冊』社団法人日本語教育学会、p.185



[実践・調査報告] 日本人教師はタイ人教師とともに働くことをどう捉えているか<sup>(1)</sup>  
 ——量的調査と自由記述の分析から見えること——

- |  |                           |
|--|---------------------------|
| 25. タイ人教師とのプライベートの関係が仕事上の関係にも影響する      | 1 2 3 4 5 6<br> _ _ _ _ _ |
| 26. タイ人教師の仕事のやり方に疑問を感じる事が多い            | 1 2 3 4 5 6<br> _ _ _ _ _ |
| 27. タイ人教師には言いやすいことでも、日本人教師には言いにくいことがある | 1 2 3 4 5 6<br> _ _ _ _ _ |
| 28. タイ人教師への日本人教師のサポートは必要不可欠だ           | 1 2 3 4 5 6<br> _ _ _ _ _ |
| 29. タイ人教師だからこそできる役割がある                 | 1 2 3 4 5 6<br> _ _ _ _ _ |
| 30. 日本人教師だからこそできる役割がある                 | 1 2 3 4 5 6<br> _ _ _ _ _ |

III. あなたが、これまでタイ人教師と一緒に仕事をしてきたなかで、もし、トラブルなどでタイ人教師に対して不快に感じたケースがあれば、そのエピソードについて教えてください。

- そのエピソードに関する以下の項目についてお答えください(おおよそ、分かる範囲で結構です)。  
 \* 選択形式のものは、該当する選択肢を太字にする/赤字にする、あるいは他の選択肢を消すなどでご対応ください。

いつ頃: タイで働き始めてから [ 年 カ月 ] 経過したころ

どこで: [職場で・職場以外で(できれば具体的に: )]

相手: 年齢 [ ] 歳, 日本語教師歴 [ ] 年程度, 日本語能力 [ ]

相手との関係: [それまでも関係は良好とは言えなかった・それまでの関係は悪くなかった]

相手とは: [それまでもトラブルがあった・それまでにはトラブルがなかった]

- 以下にそのエピソードを具体的に記述ください。

- そのときあなたが考えたこと、あなたの心情を具体的に記述ください。

- その後、タイ人教師との関係に変化がありましたか。

[特に変化はなかった・しばらく関係が悪くなった(期間: 年 ヶ月間)・以後関係が修復しなかった]

IV. あなたが、タイ人教師と一緒に仕事をするとき、注意していること、心がけていることがあれば、その内容について具体的に教えてください。

V. 最後に、お尋ねします

●同僚以外にタイ人の親しい知り合いがいる ..... [はい・いいえ]

●タイ人のカウンターパートがいる ..... [はい・いいえ]

\*カウンターパート・・・ビザなどの事務手続きや生活全般などに関してサポートしてくれる人物

ご協力ありがとうございました!